

4.7.29

別紙 4 (調査研究費)

調 査 報 告 書

令和4年7月29日

木津川市議会議長 森本 隆 様

会 派 名 公明党

会派代表者 柴田はすみ

議 員 名 柴田はすみ、大角久典

調 査 期 日	令和4年7月13日(水) ～ 令和4年7月15日(金)
調 査 先	茨城県龍ケ崎市 ・子育て環境日本一を目指す取り組みについて ・防災、減災日本一及び災害時受援計画について 福島県浪江町 ・水素利活用の取り組みについて ・福島水素エネルギー研究フィールドの視察について 茨城県土浦市 ・公共施設と市役所本庁窓口をリモートでつなぐ行政 のデジタル化について ・まちなか定住促進事業、空き家対策について
参加者氏名	柴田はすみ、大角久典
調査項目等	別 紙

龍ヶ崎市の視察研修を終えて

龍ヶ崎市は茨城県の南部、東京の北東約 45 キロメートル・筑波研究学園都市の約 20 キロメートル・成田国際空港の北西約 20 キロメートルに位置し、東西約 12 キロメートル・南北約 9 キロメートルの市で、面積は 78,59 平方キロメートル。東は稲敷市・河内町に、南は利根町、西は取手市及び牛久沼を挟んでつくば市・つくばみらい市に、北は牛久市に接する地域。

首都圏 50 キロメートル圏内という地理的条件から龍ヶ崎ニュータウンやつくばの里工業団地の開発による都市化が激しい。南部は沖積平野で穀倉地帯。西部には白鳥が集う牛久沼があり、自然環境が豊か。暖の差が比較的少なく、平均気温も 14 度程度と気候に恵まれた土地。人口、75,424 人（令和 4 年 2 月現在）

子育て応援都市宣言

次代を担う龍ヶ崎市の子供たちの笑顔、笑い声は、時にいやしでもあり、明日への活力となります。

すべての龍ヶ崎市民が世代を超えてともに力を合わせ、家庭・学校・企業を含めた地域社会全体で子育てを支えていく社会を実現していくため、ここに「龍ヶ崎市子育て応援都市」を宣言（本文より一部抜粋）のもと様々な子育て支援策を

展開。発達に不安のある子どもを療育する「障がい児通所支援事業所つぼみ園」を新築移転し、発達支援センターつぼみ園として開所。未就学児から6年生までが対象。

一人ひとりの発達段階に合わせて、学習、コミュニケーション等集団療育を実施。保護者から「移転を待ち望んでいた。広い部屋で子供たちが伸び伸び学ぶ環境になり嬉しい」との声がたくさん寄せられている。

また、龍ケ崎市電子母子手帳サービス「たつのこ たっち」で自治体からのお知らせが届くなど出産・子育てをしっかりとフォローしている。

待機児童ゼロ、病児病後児保育、子育てママの預かりサービスなど実施。

様々な子育て支援をされており、子育てするなら龍ケ崎市に、との思いが伝わってきた。木津川市も子育てナンバーワンをめざしているので大変勉強になりました。

行政視察報告書

日時：2022年7月14日

視察場所：福島県浪江町

視察内容：1、水素利活用の取り組みは。福島水素エネルギー研究フィールドを視察して

浪江町については、震災時の人口は、21,434人。世帯は7,671世帯。現在の人口は、1,878人、世帯は1162世帯と8%しか戻ってきていない。研修にあたり、震災遺構の請戸小学校に現地視察を行う。津波の恐ろしさを肌で感じた。

今回の視察で次世代エネルギーの究極なクリーンエネルギーの水素を作り出して町の電気を賄うための仕組みをきく。福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)で水素を作るところから運ぶトレーラーや大型FC車両充填実証研究施設(HDV)が建設中。4年10月に稼働予定。

担当者からは、日本初や世界初の実証実験をしている町をアピールして全国に注目を集めていることで人が浪江町に集まってくることへの期待を寄せていた。現在の実証実験の紹介があり、水素をより安くする方法やその安くした水素をどのように運ぶかをプロパンガスを運ぶ仕組みを使って行うとしている。

Q1-(1)：水素利活用の取組みについて、現段階では町の電力エネルギーの供給は賄えているのでしょうか。どの程度、電力エネルギーの地産地消になっているのですか。

A1-(1)：賄えていない。公共施設等への純水素燃料電池導入。

Q1-(2)：太陽光発電→水素製造による利活用のシステム。現時点での課題があればお聞かせ下さい。

A1-(2)：作った水素をどのように運ぶのか。まだまだコストがかかる。建築基準法で専門の人が常住しないといけない法律となっているので法整備が必要になるなど水素エネルギーをいっぺんに普及させるのには一つ一つの課題を克服していくしかないと感じた。木津川市としても電気の地産地消を目指す取組み期待したい。

2、見守り電球（点灯情報使った安否確認）

取り組みを実施するに至った経緯

令和2年の5月に南相馬市の復興公営住宅南町団地で起きた孤独死を深刻な課題と受け止め、町及び県社協が協議。県社協からNTTが所有する「見守り電球実証実験」の提案を受け、令和3年1月15日10世帯のトイレに電球を設置した。事業主は町社協。予算（財源）実証実験の期間のサービス利用料はNTTが負担。見守りの対象者：町内に住む60歳以上の独居世帯及び高齢者世帯。

Q2-(1)：令和4年度、現在の導入は対象が何世帯で、導入世帯は何世帯ですか。

A2-(1)：40世帯を予定。令和4年度7月1日現在24世帯、27人。

Q2-(2)：その費用として、

①．町民負担は、いくらですか。A2-(2)現在、町民負担はなし。

②．令和4年度の予算措置は、何世帯分で、いくらですか。

A2-②522000円 50世帯

③ . NTTコミュニケーションズが開発された「見守り電球」とのことですが、E26 ソケットがない場合はどのように対応されているのですか。

A③ : E26 ソケットがない場合は、利用できない状況。

NTT コミュニケーションズとの意見交換中。NTT コミュニケーションズ側でも埋め込み式 LED 等に対応できるように進行中。

Q2-(3) : コロナ禍で独居老人の発見が遅れ、孤独死が増えています。社会福祉協議会を中心に高齢者世帯へ「見守り電球」が設置されてはいますが、未設置のところにはどんなバリア（設置できない理由）があるのでしょうか。

A2-(3) : 自分の行動を監視されるようで抵抗感があるとの声や町で緊急通報システムの導入も行っているのもそこでの併用することで複雑化を心配している。最大の利用は、町内にある復興公営住宅等の多くは高齢者が入居しているが、そのほとんどが埋め込み式の LED 電球になっており、「見守り電球」が対応できない。

Q2-(4) : 利用者、家族などからはどのような声、意見（評価）がありますか。

A2-(4) : 導入時から安心できるとの意見を聞いている。また、利用者と家族が離れて生活しているケースが多いが、その際には、ご家族にアプリを入れてもらい、安否確認もできる。その点は安心できるとの声をきく。

以上の点で木津川市でもこの「見守り電球」の取組みを期待する。

日時 : 7 月 15 日 (金)

視察場所 : 茨城県土浦市

視察内容 : 1. 公共施設と市役所本庁窓口をリモートでつなぐ行政のデジタル化について視察する。土浦市では、令和 3 年 10 月から、本庁舎と外部施設（支所・出張所、各地区公民館など）をテレビ会議の形式で接続し、市民に来庁しなくても、最寄りの外部施設で各種申請、届出をすることが可能な「リモートコンシェルジュ」の運用を開始している。4 年 7 月現在、80 件程度の運用実績がある。導入に対しては 2300 万円の予算。これには地方創生臨時交付金を充てた。テレビ画面上で住民と市の職員とのやり取りが出来る。広報やホームページで周知をはかった。リピーターが多く。口コミで広がっている。課題は、通信速度の見直しが必要と感じている。

2. 「まちなか定住促進事業」については、中心市街地の人口が緩やかな減少傾向。そこで「土浦市中心市街地活性化基本計画」に基づき、中心市街地エリア内空きビルを共同住宅等へ用途変更する方に対して、一定額の補助を行うことにより、中心市街地における空きビル等の解消と住宅供給を図る。令和元年 7 月制度開始。令和 5 年度まで実施。賃貸住宅家賃補助・住宅購入補助も併せて実施。木津川市としても市街地の空き家対策の一つの取組みとして導入してはどうかと考える。

茨城県龍ヶ崎市議会

- ・子育て環境日本一を目指す取り組みについて
- ・防災、減災日本一及び災害時受援計画について



福島県浪江町議会

- ・ 水素利活用の取り組みについて
- ・ 福島水素エネルギー研究フィールドの視察について



茨城県土浦市議会

- ・ 公共施設と市役所本庁窓口をリモートでつなぐ行政のデジタル化について
- ・ まちなか定住促進事業、空き家対策について



